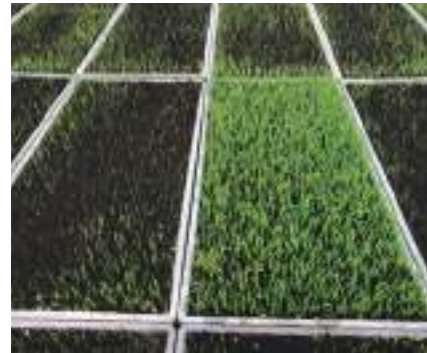


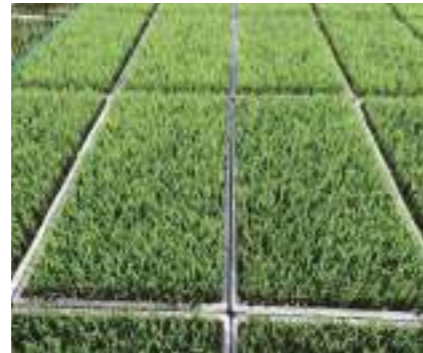
# 水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JAにいかっぷ

小野寺 博幸



試験区の様子 4.26撮影



慣行区の様子 4.26撮影



試験区の様子 5.16撮影



慣行区の様子 5.16撮影



左:試験区 右:慣行区 5.16撮影



左:試験区 右:慣行区 5.16撮影

## 試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

## 試験作物 及び品種

水稲(ゆめぴりか)

## 試験資材 及び数量(規格)

こめパワーマット 180枚(6ケース)

## 慣行資材

培土

## 栽培方法

	播種日	定植日
慣行区:	4月18日	5月20日
試験区:	4月18日	5月20日

## 資材使用期間

4月18日～

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

かん水については、2ℓ/枚を目安に行ったため、問題なかった。

播種・覆土の作業員が、培土からこめパワーマットへ育苗箱が変わった際、覆土が少ないと感じ、誤って設定を変えてしまった。そのため、覆土の設定がやや難しい。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

(1)のとおり覆土設定を変えてしまったため、設定変更前の3枚のみは芽出しに問題なかったが、設定変更以降は、芽出しが遅れてしまった。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 土苗に比べて育苗箱が軽くなるため、作業性が向上する。

【問題点】: 育苗時の水管理や温度管理が土苗と異なるため、慣れるまで注意が必要。

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

問題なし。

## モニター感想

播種、覆土作業をしていた方が、育苗箱が土苗からこめパワーマットに変わった際、覆土がすり切りでなくなったため、すり切りとなるよう設定を変えてしまった。そのため、芽出しが土苗と変わらなかった育苗箱は3枚だけになってしまった。

育苗後期、芽出しが遅れた試験区の苗丈が慣行区に近づいてきたものの、やや小さいままだった。また、原因は不明だが、試験区の方がやや立ち枯れが多く感じた。

田植え直前は、試験区の苗の色が濃かったため、こめパワーマットの肥料分は良かったと感じた。田植え時、浮き苗などもなく、問題なかった。田植え後の生育差もないと思われる。

## JA担当者の感想(生産資材課 小山田氏)

1戸あたりの水稲面積は増加傾向であったり、高齢化も進んでいるため、よりこめパワーマットのような省力化資材は普及拡大していくと思う。

当管内では、若手の生産者でもこめパワーマットを使用している方がいる。

今後も他に省力化資材や、生産者にメリットのある資材があれば、推進していきたい。

## 今後の使用について

次年度の使用を検討中。